

## 福島住民県外避難、埼玉分会救いの手を差し伸べる

【人間社記者陳春蓮東京報道】2011/03/19

3月11日、東日本東北地方に発生したマグニチュード9・0の地震により、東京電力福島第一原子力発電所の冷却システムが故障した。それにより放射能が漏れ、同原発から半径20～30キロメートル以内の住民は避難することとなった。3月19日、福島県双葉町及び周辺の2,200名の住民は40台余りのバスに分乗し、避難所となったさいたま市のさいたまスーパーアリーナに避難した。

避難人数が多いためボランティアもかなりの人数を必要としているのだが、埼玉県にボランティア登録をした者以外はボランティア活動に参加できない。東京協会埼玉分会前会長陳春金師姐は特殊な介護資格を持っているので、ボランティア活動に参加することができた。

春金師姐を通して得た情報では、必要物資（水、歯ブラシ、歯磨き粉、大人用おむつ、靴下等の生活用品）が不足しているとのことである。廣田貞子会長と埼玉分会会員の高見等・暁子夫妻及び関根春蓮さん、須藤雪絵さん、西脇美代子さんたちが直ちにそれらの必要物資を購入し、避難所に送り、無縁大慈、同体大悲の精神を発揮した。

